

ウェアラブルカメラを装着したAtosデモ

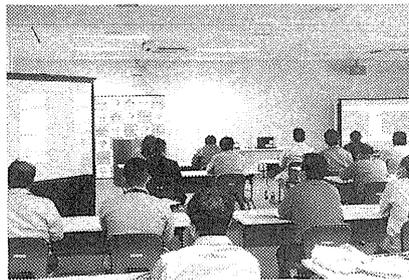
関東地方整備局、同局の常陸河川国道事務所と久慈川緊急治水対策河川事務所、茨城県建設業協会は18日、水戸市の常陸河川国道事務所で開催された遠隔現場の遠隔臨場勉強会を開いた。現場サポート(鹿児島市)やAtos(埼玉県加須市)の各担当者が製品の紹介やデモンストラーションを実施し、両事務所の監督職員や受注者などが遠隔臨場を学んだ。

整備局、茨城建協ら遠隔臨場勉強会



冒頭、常陸河川国道事務所の大山修副所長は「常陸河川、久慈川の両事務所が積極的に遠隔臨場を推進するため本日の勉強会を企画した。遠方の現場は時間短縮に大きなメリットがあり、新型コロナウイルス感染症

は時間短縮に大きなメリットがあり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にも寄与する。今後、通常に使われることになると思いため、これを機に積極的な活用を考え、建設現場の働き方改革や生産性向上に役立てていきたい。さらには、那珂川や久慈川の緊急治水対策



現場サポートによる遠隔臨場デモ

現場サポートによる遠隔臨場デモ

現場サポート、Atosの製品体験

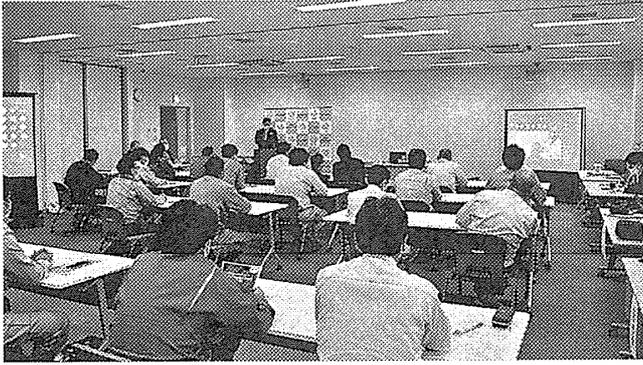
緊急治水プロジェクト加速

プロジェクトの加速化につなげてほしい」とあいさつした。写真。

その後、現場サポートの担当者が「現場クラウドforサイボウズOffice」の遠隔臨場機能オプションを紹介した。鹿児島市の本社にいる担当者が手にするスマートフォン画面を参加者に見せながら、受注者による現場の配信操作などを実演した。

Atosの担当者は、新技術情報提供システム(NETIS)登録のスマートグラスを使った遠隔作業支援ソリューション「Generation-Eye」を説明するとともに、グラスから見える映像を披露した。参加者もスマートグラスを装着して体験した。

遠隔臨場積極活用を

関東整備局常陸
河川国道が勉強会

関東地方整備局常陸河川国道事務所は18日に水戸市で遠隔臨場の勉強会を開いた。写真。国や茨城県の発

注担当者や県内建設会社の社員などが参加。スマートグラスなどを使った実施方法などを解説した。冒頭、同事務所の大山修副所長は「遠隔臨場は作業効率化に大きな効果がある。講習を機に積極的な活用につなげてほしい」と呼び掛けた。

勉強会では、建設業にクラウドサービスを提供する現場サポート（鹿児島市、福留進一社長）の担当者が遠隔臨場の実施方法などを解説した。建設会社を対象に遠隔臨場の導入支援を手掛けるAtos（埼玉県加須市、渡邊直也社長）は、スマートグラスによる情報共有方法などを説明。「スマートグラスは両手をふさがずに作業ができ現場に適している」と語った。